

新規事業採択時評価結果（令和4年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
 担当課長名：長谷川 朋弘

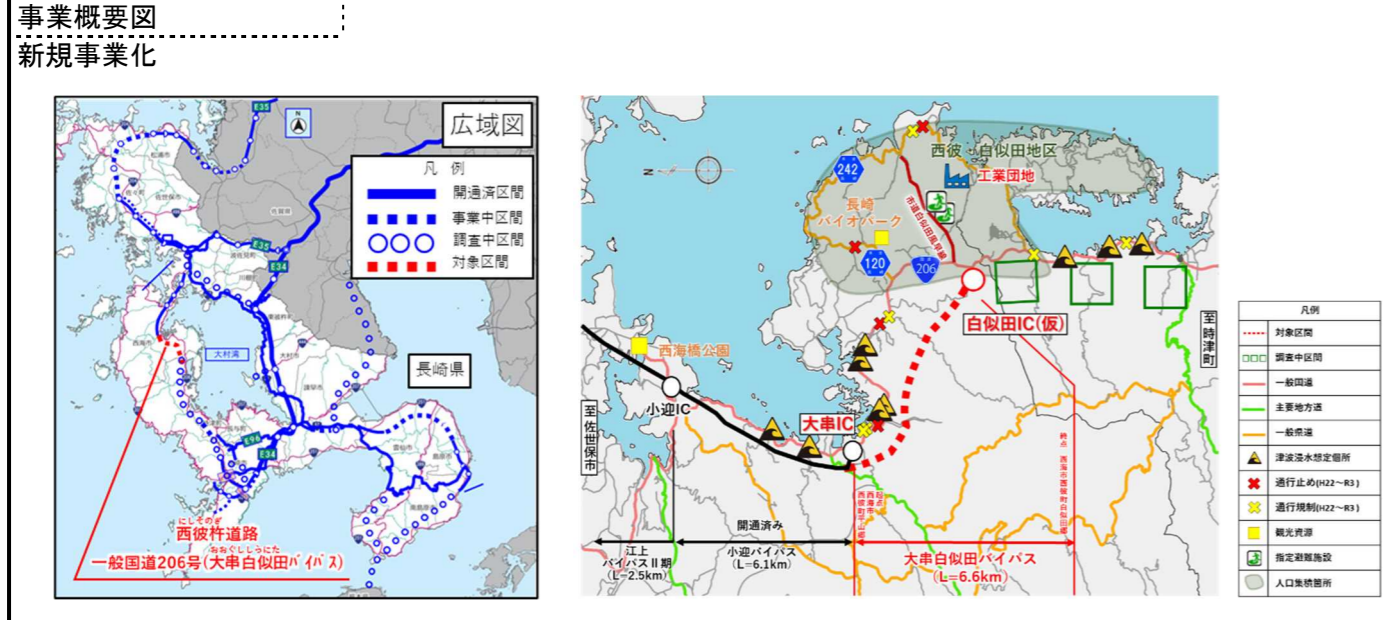
事業の概要

事業名	地域高規格道路 西彼杵道路 一般国道206号(大串白似田バイパス)	事業区分	一般国道	事業主体	長崎県
起終点	自：長崎県西海市西彼町平山郷 至：長崎県西海市西彼町白似田郷	延長	6.6 km		

事業概要
 西彼杵道路は長崎市と佐世保市を結ぶ、延長約4.6 kmの地域高規格道路であり、一般国道206号(大串白似田バイパス)は、その一部として長崎県西海市西彼町平山郷～西彼町白似田郷までの延長約6.6 kmを整備するものである

事業の目的、必要性
 当該事業の整備により、津波浸水区域等を回避することで、災害時における信頼性の高いネットワークの構築、地域間の連携強化、産業・経済の発展等が期待される。

全体事業費：約250億円 計画交通量：12,900台/日



関係する地方公共団体等の意見
 沿線自治体で構成される「西彼杵道路・長崎南北幹線道路建設促進期成会」などから、本事業区間の早期整備の要望活動(R2.11.12、R3.11.15)が行われている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
 新規事業については、公共事業評価委員会には諮っていないため、学識経験者等の第三者委員会の意見は聴取していない。

事業採択の前提条件
 ・費用対便益：便益が費用を上回っている。
 ・地元自治体等から早期整備の要望を受けており、円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

費用便益分析	B/C	1.7	総費用：172億円 (事業費：171億円 維持管理費：1.2億円)	総便益：295億円 (走行時間短縮便益：223億円 走行経費減少便益：59億円 交通事故減少便益：14億円)	基準年：令和3年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.5(交通量-10%)	B/C=1.9(交通量+10%)	
		事業費変動	B/C=1.6(事業費+10%)	B/C=1.9(事業費-10%)	
	事業期間変動	B/C=1.6(事業期間+20%)	B/C=1.8(事業期間-20%)		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	○	現道交通の転換により、交通混雑の改善 渋滞損失時間の改善 約27万人時間/年→約11万人時間/年 現道混雑度1.13→0.38	
		事故対策	○	現道交通の転換により、混雑解消による現道の事故減少 【死傷事故率】 53.3件/億台km (県平均：46.3件/億台km (死傷事故率比(県内平均比)1.15) (全国平均：51件/億台km (死傷事故率比(県内平均比)1.05))	
	歩行空間	-	注目すべき影響はない		
	社会全体への影響	住民生活	○	3次医療施設佐世保市総合医療センターへの時間短縮に寄与する道路((仮)白似田IC～佐世保市総合医療センターへの所要時間：現状41分→将来35分)	
		地域経済	◎	工業団地から高規格道路へのアクセス性が向上することで、地域産業の発展が期待(工業団地から最寄りICまでのアクセス時間：現状13分(大串IC)→将来4分((仮)白似田IC))	
		災害	◎	災害により規制が多発する現道に代わり、災害に強い安心・安全な緊急輸送道路の確保 現道の災害による交通規制：5件(H22～R3) 現道のうち津波浸水想定区間：現状1.2km→将来0km(回避)	
環境		○	通過交通の排除により、現道における沿道環境の改善 CO2排出量削減 約10t/年→約4t/年 NOx排出量削減 約16t→約6t SPM排出量削減 約0.9t/年→約0.3t		
地域社会	◎	西彼杵半島は高速交通ネットワークの空白地帯となっており、西彼杵道路の整備により、長崎・佐世保の2大観光都市の周遊観光推進による観光産業の活性化(現状105分→将来54分)			
事業実施環境	○	・長崎県総合計画により重点的に推進する事業として位置づけ ・「西彼杵道路・長崎南北幹線道路建設促進期成会」などから早期整備の要望			

採択の理由

事業主体である長崎県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.7と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
 また、災害時における信頼性の高いネットワークの構築や地域間の連携強化、産業・経済の発展支援等が見込まれることから、当該事業の整備の必要性・効果は高いものと判断される。
 以上により、本事業は令和4年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。